

タイムカプセルを埋設

胆沢町

ふるさと胆沢の今の姿を後世に伝えようと、合併25周年を記念してタイムカプセルを埋設しました。

胆沢扇状地を生んだ胆沢川から運んだ高さ5.5メートル、幅4.5メートル、重さ約60トンの巨石の横腹に箱型の穴を開けその中にステンレスで密封したカプセルを埋め込みました。カプセルには行政資料として町勢要覧、中心地区整備計画書、白黒の家族写真、広報縮刷版、各種統計、町指定無形文化財前谷地神楽のビデオテープ、物産品など140種類。50年後の2030年に開いて21世紀の町づくりに生かしてもらおうというものです。

埋設式には町内の小・中学校の代表生徒、各界代表者ら約300人が出席し、神事のあと、町長、議長、小中学生の5人で石に埋められ、次代のまちづくり拠点として整備のすすむ中心地区で50年間の長い眠りにつきました。

昭和30年に三カ村が合併して4分の1世紀、1万8,000

町民一丸となって築いてきたまちづくり25年の成果が、次代を担う若者たちに引き継がれ、21世紀の希望とやすらぎのある、活力に満ちた地域社会の建設に生かされることを願っています。

(胆沢町企画情報室・村上 寛)



▲50年後に知る町の姿。だれがカプセルを開くのだろう

ま
ま
ら
ら
か
ら

地熱水調査に熱いまなざし

一戸町

新しいエネルギー資源として注目されている地熱水を、農業用に利用しようという「北東北地域地熱熱水開発調査事業」の最後のボーリング調査が、当町、西岳山麓(ろく)で行われています。

この調査が始まったのは3年前、農林水産省の事業として、これまでに、電波探査による地殻調査、150メートルのボーリング調査が終わり、調査の目玉ともいえるべき500メートルのボーリングに取りかかりました。

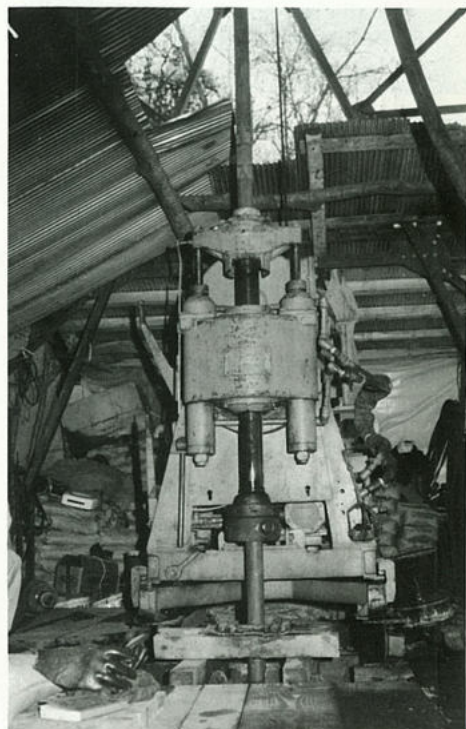
昨年12月10日現在で200メートル。3月ごろには500メートルに達する予定で順調に作業が進められています。

気になるのは、地熱水が沸き出す可能性ですが、この地区には当町初の宮田温泉と同じ断層があることから、可能性は十分とのこと。

地熱水の利用は、農業振興策として計画している施設園芸や畜舎の暖房、町民の健康管理のための施設にと多目的で、関係者の間から大きな期待が寄せられています。

ともあれ、県北の小さな町が大きく飛躍するきっかけとなることは疑いもなく、夢のある調査事業に、町民は熱いまなざしを注いでいます。

(一戸町総務課・工藤 誠)



▲地熱水がわき出すか？注目される中でボーリングを開始